

8. 学会発表資料

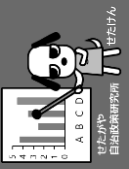
第 37 回自治体学会川崎大会(2023 年 8 月 25～26 日開催)

ポスターセッション時発表資料

世田谷区でEBPMを推進するためのせたがや自治政策研究所の活動

Actions of Setagaya Research Institute for Local Government Policy to Promote EBPM

せたがや自治政策研究所 主任研究員 田中 陽子、研究員 大石 奈美



はじめに

せたがや自治政策研究所（以下、「せた研」）は、世田谷区が2007年に設立した自治体シンクタンクです。せた研は、区政の中長期課題に関する総合的な調査研究を行うため、2021年から3年間の計画を立て、調査研究活動を展開しています。

世田谷区では現在、次期基本計画の策定を進めており、せた研は3年計画の一環として「データの整備と活用」という研究プロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトでは、区内でのEBPMの推進のため、EBPMマインドを持って政策形成を行うための人材育成と政策に活かせるデータの整備に注力しています。今回は、2021年以降のせた研の取り組みとして、「せたがや版データアカデミー」「将来人口推計の活用」「地域を考えるデータの整備」について報告いたします。

活動1 セタがや版データアカデミー(せたアカ)

目的

- データの活用に基づき政策マネジメントの庁内での定着
- 第一歩としてEBPMの普及・定着に重点を置く
- EBPMの普及・定着を推進する人材(職場内インフルエンサー)やアカデミー(講師)の育成

互学互修で達成できたこと

①知識の定着、②多様な視点の獲得、③話し合える関係づくり

プロジェクト定義

- 政策(施策や事務事業を含む)を根拠から考える場
- 互学互修が基本、一方向的に教わるのではなく、互いに教えあう場
- トライ・アンド・エラーの大切さを体験する場

2021年度

参加者が EBPM の考え方を習得し、EBPM を推進する「インフルエンサー」になること

対象 計画担当の課長・主任

特徴 政策形成の過程をフレームワークに沿って進め、最終的に政策決定まで確認・個人演習と意見交換を繰り返して気づきを得る

① 知識の定着は達成!

② インフルエンサーの養成は...

2022年度 2つのフォーラムを実施

Case Review Forum

職場で EBPM を推進する『インフルエンス』養成とフォローアップ

① 個別の施策の内容に読み込む

② 推進者や管理職との意見交換

EBPM の考え方に慣れる・広める

③ 3つのテーマを3回ずつ反復

④ アドバイス要員⇒インフルエンサーに!

⑤ 実施時間は短切か...?⇒予算編成や庁内に合わせた設計が必要

Future Policy Seminar

若手職員が基本計画検討過程に関与し、区の未来を考える機会とする

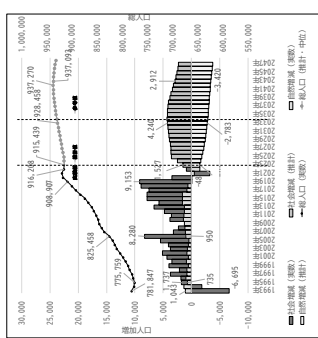
対象 概ね入庁10年目までの職員

特徴 デザイン思考×EBPM

- 区民へのインタビューからペルソナ作成
- 中間報告は審議会資料に
- 最終日は区長へのプレゼン
- 基本計画を身近に感じられるようになった!
- 区長や審議会委員からの共感を得られた!
- そのまま基本計画に取り入れるには至らなかった...

活動2 将来人口推計の活用

せた研では区の計画策定に際し、将来人口推計を行っています。将来人口推計の活用として、区民税データと組み合わせて将来の区民税課税対象者の人数と区民税額の推計を行いました。



令和4年度に実施した将来人口推計をもとに令和13年度税額と課税対象者数を算出した。30代後半～40代前半で課税対象者数が少なく、男女ともM字カーブのようになっています。

これは男女ともに30代～40代の転出超過が増加傾向にあるため、その年代の推計人口自体が減っていることが原因と考えられます。推計通りに人口が推移した場合、区の財源はより一層厳しくなるかもしれません。

このように将来人口推計を他のデータと組み合わせることで、単に人口の増減を見るだけでなく、様々な視点から区の将来を考える材料となります。

活動3 「地域を考えるデータ」の整備

データがないから分析できず、つかう人がいないからデータが整備されないという悪循環

⇒データを「地域を考えるデータ」として整備する必要がある

2021年度の調査研究＜現状把握＞

世田谷区は2013年よりオープンデータを公開

① 2021年の区HPのオープンデータポータルは...⇒大変残念な状態(表形式のPDF:2割、データがない:1割)

2022年度

- ・統計調査担当が取り纏むオープンデータの改善を支援⇒「統計情報館政策支援」
- ・活動① ミニワークショップはどうする? どうなる? ⇒「統計情報館」実施
- ② 「い計」の存在がデータ提供者と使用者に面倒な作業をもたらすことが判明
- 活動② 庁内オープンデータ「もう一度オープンデータを考える」実施(全庁職員向け)
- 講師に下山紗代子氏をお招きして、オープンデータについて学びなおした
- ③ 全庁のオープンデータ見直しにつながった

今後の予定

- ・全庁でのEBPM推進に向けてインフルエンサー養成とフォローアップを続ける。
- ・整備した「地域を考えるデータ」を使う人材の育成も行う。
- ・人口推計データ×〇〇で地域の未来を考えるデータを増やす。
- ・「ダッシュボード」でデータの見える化を進める。

